

環境モニタリング機器を活用したトマトの栽培管理支援（日高農業改良普及センター日高西部支所）

背景

【平取町の概要】

- 耕地面積4,660haで施設園芸、水稲の複合経営が多い地域である
- 施設園芸はトマト栽培が中心で全道一の生産量を誇っている

【地域の課題】

- トマトは収量、品質に戸別差が生じており、収量の高位平準化が求められている
- 経営面積拡大に対応する作業効率化が求められている
- 労働力の不足に対応する技術導入が必要である

普及活動内容

- 環境モニタリング機器を活用し、トマトハウスの土壌水分を「可視化」



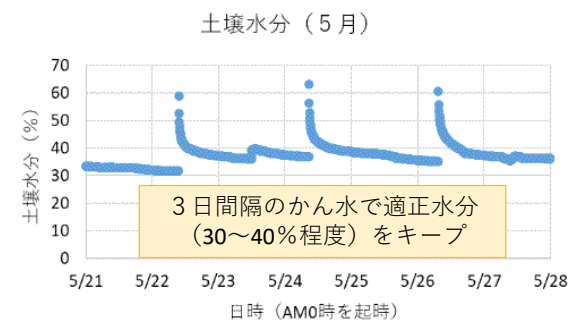
- 普及センターは、測定データを整理し、農業者は提供されたデータを栽培管理に活用
- 農業者と生育と収量を確認



普及の成果

【具体的な成果】

- モニタリングに基づく水管理で適正な土壌水分を維持した



- ハウス内の湿度が抑えられ、病害防除回数は7回→0回へ低減

【成果のポイント】

- 活動に理解があり、協力の得やすい重点地区の農業者と活動を進めた
- 今後も地域関係機関と連携して活動を継続する